

『(株)森本ステーブル』〔取材記事〕

育成調教技術者養成研修 (第22期修了者) 工藤 桂
 (第26期修了者) 土井 里美
 (第27期修了者) 南 早穂

今回の取材にご協力いただいたのは、日高軽種馬育成総合施設軽種馬育成調教場(以下BTC調教場)を利用し、近年着実に成績をあげている浦河町の株式会社森本ステーブルです。こちらには育成調教技術者養成研修を修了した、工藤桂さん、土井里美さん、南早穂さんがいらっ



左から土井さん、南さん、工藤さん

○きっかけは三人三様

この世界に入るきっかけは?と三人にお尋ねしたところ、工藤さんは「テレビゲームです」とはっきりおっしゃっていました。「そこから興味を持ち始めたのは事実ですからね(笑)。」実家が牧場の土井さんは「動物が好きで、そういった関係の仕事がしたいと思っていました。ただその中でも馬に癒しを感じるもので…(照)。あっ!実家の影響はないです。」南さんは「幼い頃にポニーに乗ったのがきっかけで、そこから乗馬クラブに通い始めました。乗馬の馬って、元競走馬が多いですよ?それで競馬ってどんなんだろう…と。そこからですね。」三人とも馬の世界を志すきっかけは違いましたが、今では立派なホースマンとして働いていらっ

○研修から牧場へ

三人に研修時代のお話を聞いたところ、「真面目に黙々とやっていたね。毎日新たな発見があって面白かったです」と工藤さん。南さんは「私も結構優等生でしたよね?(笑)。研修後半は、自分には結構スパルタ的な感じで教えていただいたのは覚えています。」土井さんは「全般的に

遊んでいた思い出しかないです…(笑)。研修が楽しかったから、そう覚えているのかもしれませんが。」

一年間の研修が修了した後、この業界に従事された御三方、色々なご苦労があったと思われましたが、「苦労したという思いはなかったですよ(笑)。目の前にあることをこなしていくだけでしたから。研修同様、新たな発見が多く、面白いことだらけでしたね。」と工藤さん。南さん、土井さんはそれを聞いて「すごいですね。」と感心していらっ

○お嫁さん?

今後、こういった夢みたいなものはありますか?とお尋ねしてみました。女性二方が開口一番「お嫁さん!」と叫ばれました。…あの、馬関係で?と改めてお聞きしたところ、南さんが「研修修了後に海外研修に行かせていただいて、向こうのゆったりとした時間の中で馬を扱っていたのが印象的でした。比較的ここはそれに近い状態なので働きやすいですよ。ここで色々お世話になっているので、この育成馬から重賞勝ち馬を出せるようにしたいです。」工藤さんは「将来開業できるようになりたいです。今開業してもすべての面で未熟ですから、もう少し色々なことを学んでいきたいですね。」と。土井さんは「馬に乗ることが好きですから、いつまでも乗り続けられるようにすることが夢です。おばあちゃんになっても馬に乗っていたいですね。そのときにもリスペクトされるような…(笑)」。お二人ともお嫁さんは?「30くらいでいけたら…(照)」

○ドキドキと感動

皆さんに、仕事以外のことで興味があることを聞いてみました。工藤さんが「競馬です!基本的にギャンブルが好きなので。それも自分のためだと思っています。人はドキドキ感が無いとダメになると、ある本に書いて有りましたから(笑)。競馬はドキドキ感を得るためにやっています。もちろん生活に支障のない程度に(笑)。」と。南さんは「スポーツ観戦が好きですね。今回のロンドンオリンピックで女性が

活躍しましたよね？ それを見て結構励みになりました。女の子だからしょうがないとは思わたくはないので…。」土井さんは「私…ドキドキも感動も少ないですね…。あっ、最近アニメ見て泣きました(笑)。」

○これからの人に…

これからの人に向けてアドバイスみたいなものはありますか？とお尋ねしたところ、工藤さんは「言われたことを素直に受け取る姿勢が大切だと思いますよ。どこの世界でも同じだと思いますが、謙虚さって大事です。それと中途半端な気持ちでやるのなら、やめたほうがいいですね。」南さんは「未来の理想像を求めていくことですね。こうありたい、こうなってみたい、強い気持ちが本当に大事だと思っています



右が代表の森本氏

から。」土井さんは「人生楽しんだ方がいいですね。何でも無いようなことが幸せに感じないと(笑)。そうすれば何でも乗り越えていけますよ!」

終始和やかな取材になりました。それもこのステーブルの雰囲気がそうさせているのではないかと感じました。皆さんが生き生きと仕事されている姿を見て、本当に嬉しく思いました。最後に土井さんが「昔、私が書いたBTCニュースの記事、採用されなかったのはなぜでしょうか…」と聞かれましたが、紙面上の問題で決して土井さんが悪い訳ではございませんとのことでした。皆さんご協力ありがとうございました。

(平成24年10月取材 K.S.)



1歳馬騎乗中

『(株)ノースヒルズ』(取材記事)

育成調教技術者養成研修(第24期修了者) 鈴木 知樹
(第24期修了者) 鈴木 明音

今回、取材にご協力していただいたのは、新冠町の株式会社 ノースヒルズです。こちらは、2012年天皇賞(春)を勝ったビートブラックをはじめ、トレイルプレイヤーやアーネストリーなど、近年数々の活躍馬を輩出されています。また、当センターの育成調教技術者養成研修を修了された24期の鈴木 知樹さんと鈴木 明音(旧姓 信太)さんがおられますので、色々なお話を伺いました。

○きっかけは陸上競技？

この仕事に就きたいと思ったきっかけを二人にお尋ねしたところ、知樹さんは「中学生の時に、親に競馬場に連れてってもらったのがきっかけですね。もともと動物が好きだったのと、陸上をやっていたのもあります。競馬って少し陸上競技と似ているじゃないですか(笑)、そういったものもあって自然とそのように流れていきましたね。」と、競馬そのものが身近に感じられたそうです。一方の明音さんは「中学生の

頃に、テレビで競馬中継をみて、そこで走っている馬達の姿に感動したのが決め手になりました。その前に、学校の修学旅行で外乗トレッキングを経験したのですよ。もしかしたら、その時に決めていたのかもしれませんが。」と、馬の美しさに魅せられてこの仕事に就こうと思われたそうです。

○研修時代は支え合って…

なぜBTCに入構しようと思われたのですか？

「ノースヒルズで学生の時に研修をさせていただいた時に、BTCの研修生が実習にいらしてまして、色々とお話を伺ったのです。学ぶには恵まれていると感じましたね。研修に没頭できる環境だと。」と知樹さん。「高校生のときから、この仕事に就くために色々準備していたのです。乗馬も始めていましたから。その時、色々調べていくうちにBTCを知ることができました。」と明音さん。

研修時代の思い出は？

知樹：「本当に研修には没頭できましたね。恵まれていましたし、本当に色々なことを教わりました。」

明音：「私は結構きつかった思い出が…後半は毎日泣いていたような気がします(笑)。よく落馬もしました。でも続けていて良かったと思っています。今思うと結構たいしたこと無かったのですけどね(笑)」

知樹：「彼女は色々悩んでいましたよ。本当に落馬は多かったです。自分が良く相談相手になっていましたから(笑)」

そういったことでお二人同時にこちらにご就職なさったのですか？

知樹：「そういう訳ではありませんが、自分は学生の時にこちらにお世話になったので、入講当初から就職先は決めていました。本当に良い方が多かったのです。」

明音：「私は研修中、牧場実習でこちらにお世話になった際に決めました。本当に後輩想いの先輩方が多かったのです。あっ、知樹くんの存在は関係ないですよ(笑)」

知樹：「でも結婚しちゃいましたけど…(笑)」

○気持ちに余裕のある職場

勤めてからどうでしたか？

知樹：「失敗の連続でしたね。今でも技術の無さは痛感しています。本当にすべてが勉強の日々です。失敗しても色々仕事を任せていただいているからこそ、今の自分があると思っています。本当に気持ちに余裕のある優しい方が多いです。」

明音：「最初は本当に何も知らないまずい子でした(笑)。こちらの方々のおかげで今の自分があると思っています。本当に変えていただきましたから。」

今、とても良い成績を上げられていますよね？

知樹：「特に変わったことはしていませんよ。ここは馬にストレスがない環境だからかもしれませんね。それ以外にも自分は、馬に気持ちの余裕を与えられるようには心がけています。馬には胃潰瘍が結構多いみたいですから。」

明音：「余裕は本当に大切だと思いますね。これは馬に限ったことではないと思っています。ここは楽しく良い雰囲気で仕事をさせて頂いるのが、良い結果につながっているのではないのでしょうかね。」

○優しくすることが…

これからの人にアドバイスなどはありますか？

知樹：「余裕を持つこととコミュニケーションを取れることが大切ですね。人にも馬にも。人と馬に優しく出来る人は人と馬から優しくしてもらえます。優しくされると優しくしたくなりますから」

明音：「好きでいられることが大切ですね。そのためにそ

の場になじむこと。なじめたら楽しくなって上達していきます。もちろん自分の努力も大切です。自分から輪の中に入っていければ相談とかも気楽に出来ますね。ストレスを溜め込まないようにになりましたから。」

今のご夫婦となり、公私とも充実されている知樹さんと明音さん。お二人の姿を拝見していると、好成绩を残されておられる原動力がわかるような気がします。また、お互いが尊重し合っているところがとても印象的でした。今後のお二人とノースヒルズのさらなるご活躍を願っております。今回はお忙しい中、本当にありがとうございました。

(平成24年10月取材 K.S.)



鈴木知樹さん(左)と明音さん



さすがに息もピッタリです



馬に優しく接する鈴木さん



きゆう舎外観